

アジア車いす
交流センター
(WAFA)



セイブ・
イラクチルドレン・
名古屋



泉京・垂井



真如苑・名古屋NGOセンター
協働事業

東海地域NGO 活動助成金 報告書

2017年度

日本
ポリビア人
協会



平和のための
戦争メモリアル
センター
設立準備会



RASA-
Japan





CONTENTS

主催団体からのメッセージ 2

宗教法人 真如苑
特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

助成団体報告書

1. 認定NPO法人 アジア車いす交流センター(WAFCA) 3・4

タイ車いす修理ボランティア事業
助成金額 15万円

2. セーブ・イラクチルドレン・名古屋 5・6

イラク人医師の愛知県内の病院における医療研修
助成金額 15万円

3. 特定非営利活動法人 泉京・垂井 7・8

フェアトレード、地産地消と日常生活とのつながり強化
助成金額 16万円

4. 特定非営利活動法人 日本ボリビア人協会 9・10

在日外国人のための生活オリエンテーション動画作成事業
助成金額 17万円

5. 認定NPO法人 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会 11・12

戦争と平和の資料館ピースあいち開設10周年記念誌刊行事業
助成金額 17万円

6. 特定非営利活動法人 RASA-Japan 13・14

栄養失調児童の給食支援活動
助成金額 20万円

助成金概要 15

2017年度 東海地域NGO活動助成金報告書 主催団体からのメッセージ

(特活)名古屋NGOセンター

「東海地域NGO活動助成金」は、東海地域を拠点に活動するNGO団体の活動を支援し、その発展に寄与することを目的に、宗教法人真如苑と名古屋NGOセンターの協同事業として2009年度より始めました。ここに第9回目である2017年度の助成事業の報告書をお届けいたします。

当年度は14団体からの応募をいただきました。外部有識者を含めた選考委員会による厳選な審査の結果、6団体の事業が助成を受けました。それらのNGOは、それぞれの事業実施において、さらなる成果を上げることができたことと確信いたします。

本助成金は真如苑の寄付により運営され、協同事業主体の名古屋NGOセンターのミッションと行動規範を定めた『ステファニ憲章』の精神に沿った団体事業を対象に助成しています。

真如苑の関係者の皆様のご協力に、改めてこの場でお礼を申し上げます。今後とも東海地域の中小規模NGOの成長にお力添えをいただきながら、新しい価値観や社会の在り方を求めて活動し、連携できることを願っています。

なお現在、2018年度(第10回)の助成事業が公募によって決定しております。

しんによえん 真如苑について

真如苑は開祖・伊藤真乗(1906～1989)が昭和11(1936)年に開いた仏教教団です。開祖は真言宗醍醐派総本山醍醐寺で得度し、伝統仏教の法流を悉く受け継ぎました。その後、仏典を研鑽の末、仏遺言の教え・大般涅槃經を中心とする真如苑を設立。現在は、伊藤真聰が真如苑の苑主として教団を代表しています。真如苑は、大般涅槃經に説かれる大乘利他の精神を、日々の社会生活に活かす実践を重んじます。真如苑の社会貢献活動は、開祖が願って止まなかった人類の至福と世界平和を現代にあらわしていく営みのひとつです。

タイ車いす修理ボランティア事業 (第32回)

WAFCAのタイ現地カウンターパートであるWAFCATでは、1999年の設立以来、障がいのある子どもたちに対し、身体に合わせた車いすの寄贈を行っています。また、WAFCATのボランティア活動の一環として、車いすの修理サービスを受けることが困難な遠隔地域を訪問し、ボランティア自身の手で無料で車いすを修理する活動も行ってきました。資金調達の有無によって年に1~2回開催し、今回で第32回目を迎えました。

事業の背景と目的

タイ社会開発人間の安全保障省によると、タイで車いすを必要としている障がい者は 47,000 人で、毎年政府が 4,000 台、民間団体が 3,000 台を供与しています。ニーズに対する供与数のギャップが埋まりつつある一方、供与後に修理サービスを受けられず、壊れて使用できなくなったり、成長して身体に合わなくなって使えなくなった車いすを複数所有しているケースもあります。政府は車いすサービスをデータベース化しておらず、このような支援の重複やフォローアップの問題に対処できていません。

とくにバンコクなどの都市部との格差が指摘される農村部では修理サービスを受けられる場所がない、あってもお金がなくて修理できない、修理する場所まで持っていけないことが課題となっています。とくに今回活動を行ったタイ北部のナン県(バンコクから車で 13 時間)は県内のほとんどが山間部で移動が非常に不便です。なかなか車いすの修理やメンテナンスを受ける機会がない障がい児・者へ移動サービスを届ける目的で本事業を企画しました。

事業の内容

事業実施の約1ヶ月前からナン県特殊教育センター(教育省管轄)の協力を得て、壊れた車いすの回収作業と交換部分のチェックを開始しました。そして必要な部品を発注し、消耗部品も購入しました。参加者は約 3ヶ月前から募集し、定員30名のところ58名集まりました。

活動当日は、特殊教育センターの22名の先生方も加わって、総勢約85名が参加しました。事業計画書では70台の車いすを修理する予定でしたが、車いす修理部品の高騰により、事前に集めた車いすは30台となりました。

当日障がい者の方が3台持参されたので、計33台になりましたが、その内、2台はどうしても修理できなかったため、最終的な修理台数は 31 台となりました。普段は工場で働くボランティアさんたちが車いすのフレームを切断したり溶接したりとスキルを発揮して、むずかしい修理工程を引き受けてくれました。また、日本からも 1 名参加し、タイ人のボランティアに交じって作業しました。

修理後に交流パーティーを開催し、一緒に夕食をとりながら活動を振り返ったり、初参加者の感想を聞いたり、最後はカラオケで盛り上がり、ボランティア同士の交流を深めました。

本助成金申請時には2回を予定していた車いす修理事業ですが、物価高騰により車いす1台にかかる修理費用が高くなったため1回とし、代わりに修理依頼があった車いす修理5台をWAFCAT事務所にて修理しました。



参加者記念撮影

事業実施団体の概要

団体名:認定NPO法人アジア車いす交流センター(WAFCA)

活動内容:

車いすの普及活動を通じ、アジアの障がい者の自立できる環境作りを行うとともに、スポーツ・教育分野における支援・交流を通じて、バリアフリー社会の実現に寄与することを活動目的としています。

住所:〒448-0834 刈谷市司町1-2 ふれあいプラザゆうきそう内

TEL:0566-23-5822 FAX:0566-23-5827

e-mail:ZC8WAFCA@denso.co.jp

URL:http://www.wafca.jp



活動の成果と課題

車いすの修理と言っても、サビを落としたり水洗いすることから、車輪やシートなど部品交換、合わない部品を合わせるためにスチールパイプを切断したり溶接したりと様々な作業があります。参加者には初心者からベテランまで様々な人たちがいますが、初心者はまずサビ落とし、修理がむずかしい箇所はベテランを呼んで助けてもらおうというチームワークで作業しました。最後の道具の片付けまで手を休めることなく、一緒に汗を流してお互いの信頼を深め、作業が楽しいという気持ちを持ってもらえたことが、今後の支援の継続に繋がると確信しています。成果は修理した台数だけでなく、ボランティア同士の交流の面でもあったと思います。

車いすの修理部品代に多額の費用がかかることが引き続き課題です。参加者の旅費を出すことができないため、観光地と

しても有名な場所を選び、自費でも旅行を兼ねて参加したいという魅力的なツアーにすることにも苦労しています。また、移動サービスのため、事前に準備した交換部品の中でやりくりするしかなく、部品が合わなかったり、合わせるために見た目が不恰好だったり、修理のクオリティーがあまりよくないことも課題となっています。



車いすの錆取りをするシリマーさん(左)



修理前の車いすと自己紹介する参加者



修理を終えた車いす

実施事業での現地もしくは参加者の声

デンソー(タイランド)社員

シリマー・カセムシーピタックさんのコメント

「初めて参加しました。障がい者の生活の質を向上させる為、彼らに幸せを届ける活動に参加できたことを感謝しています。このような素晴らしい機会を与えてくださりありがとうございました。」

事業実施団体のひとつ

本当に使っているのか不思議なくらいボロボロの車いすがたくさん待っていました。フレーム以外はほとんどの部品を取り替えたり、修理に半日掛かった車いすもありました。でも、この車いすがないと困る人がいるんだという気持ちで、みんなで1台ずつ丁寧に磨いて修理しました。綺麗になった車いすを見た時の清々しい気持ちが支援の輪に繋がると感じました。交換部品代(寄付)が集まったら、また企画したいと考えています。

イラク人医師の愛知県内における 医療研修支援

当会はイラクの子どもたちへの医療支援を行う団体である。戦争・経済制裁・過激派に苦しむイラクの医療者からの依頼を受け、「イラク人医療者(医師が中心)に愛知県内の医療機関で研修を受けさせて、医療技術をイラクに持ち帰り現地還元してもらう」活動を事業の中心にしている。また、イラク人医療者が愛知県内に滞在している間は、可能な限り国際理解や文化交流活動にも参加してもらうようにしている。

事業の背景と目的

イラクは豊富な石油資源を有していることや地政学的な問題もあり常に紛争や戦争に巻き込まれてきた。イランイラク戦争、湾岸戦争、国連の経済制裁、イラク戦争、イスラム国(IS)占領などである。

戦争で直接殺傷されるだけでなく、湾岸戦争やイラク戦争では劣化ウラン兵器が大量に使用されたため、戦後もなお放射能汚染された大地から多くの犠牲者(=がんや先天異常その他)が生まれている。

これらの犠牲者を1人でも多く救うためには、医薬品や設備以外に医療者の技術習得が重要であるが、国情からしてイラク国内での技術習得には限界があるので、「愛知県内でできる医療支援」として当会が2004年以来継続的に取り組んでいるものである。イラク側からの要請も強く、現在までにのべ46名の医療研修を実施している。

事業の内容

2017年は、①2月から2ヶ月間、イラク南部の都市バスラからウサマ医師とアンマール医師(いずれも小児がん)②5月から2ヶ月間、イラク北部の都市モスルからヤシル医師とシェイバン医師(小児がん、成人がん)③10月から2ヶ月間、シェイマ医師(心臓エコー診断医)を招聘した。①と②はいずれも名古屋大学小児科で実施され、先駆的な医療を学ぶとともに、現在のイラクの設備を前提にした場合にどのような方法で効果の高い治療ができるかも学んでもらった。③については、あいち小児センターで2ヶ月の研修を受ければ、モスルでシェイマ医師に心臓エコー室の開設を認めるという明確なイラク保健省の決定があったため、同センターで学ぶことになった。来日後に、シェイマ医師から「男性医師による検査を本人や家族が拒否して死に至る女性が多くいるので、成人女性についても学びたい。」との希望が出されたため、この分野については名古屋共立病院が協力して指導してくれることになった。

医師らは、医療研修に励む傍ら、休日を利用して当会主催の講演や名古屋外語大や金城学院大でのゼミ講義を担当し、メ

ディア取材にも積極的に応じ、イラク市民の生の姿を知ってもらうとともに平和の大切さについて日本の市民に訴える文化交流活動を行った。広島訪問や高山・白川郷など日本のよさを知ってもらう活動も行った。



名大病院で小島名誉教授から説明を受ける

事業実施団体の概要

団体名：特定非営利活動法人セイブ・イラクチルドレン・名古屋

活動内容：

戦争、経済制裁、内戦、テロに苦しむイラクの子どもたちに医療支援を行う。
主として、イラク人医師の愛知県内での医療研修支援に取り組む。

住所：名古屋市東区白壁1丁目60番地 小野万里子法律事務所内
TEL：052-957-3555 FAX：052-957-3559
e-mail：info@iraq-c.gr.jp/ URL：http://www.iraq-c.gr.jp/
ホームページの更新が十分ではないので、フェイスブックページで日々の活動をご覧ください。



活動の成果と課題

5名の医師らは、研修先医療機関での評価は非常に高かった。とりわけシェイマ医師は女性で、しかもイスラム国に占領されたモスルに最後まで残って診療に当たった医師である。その彼女が明るく真摯に学ぶ姿は医療関係者にも好印象を与え、2つの大学で行った講義もきわめて好評であった。講義を聞いた若者から当NPO法人の活動に参加する者も出てきた。

シェイマ医師は「日本で学んだ者の責任として、私が先頭に立ってイラクの子どもと女性の医療を引っ張っていく。」と言って帰国したが、帰国後2ヶ月で「女性医師による子どもと女性のための心臓エコー検査室」を立ち上げるという有言実行ぶりである。当検査室の人気はとて高く、他の女性医師を指導しながら配置しているとのことである。

小児がんについては、バスラでようやく移植医療が開始できそうだといううれしい報告もなされている。イラクの現状は、すぐに名古屋大学レベルの治療ができる状況ではないが、将来に向けての医療復興プランを立てる上では重要な意味を持つ。また、帰国後もインターネットで画像診断を行うなど、研修先医療機関が協力して、イラクの医療を助けている。



病院で検査室スタッフと



名古屋外大でイラク情勢についての講義

実施事業での現地もしくは参加者の声

バスラからの2名の医師はバスラの最高レベルの小児病院の腫瘍科に所属している。名大方式に準じた医療を展開するために、保健省と交渉して必要機器もしくは代替機器を得るべく行動している。何回も院内報告を行い、病院全体のレベルアップのために努力している。

シェイマ医師が帰国早々に廃墟のようなモスルに「女性と子どものための心エコー検査室」を開設したことは前述の通りであるが、患者等は「先生が日本で学んできたから、私たちがこうやって女医さんの検査診断を受けることができる。日本に感謝します。」と言ってくれるそうである。

事業実施団体のひとこと

5名とも、日本での医療研修、日本での滞在をイラクで生かしています。費用対効果の大きい事業であり、イラクと日本の国際交流としても重大な意味を持つので、今後とも継続していきたいと考えています。



念願の「キモノ」を着つけてもらう

フェアトレード、地産地消と 日常生活とのつながり強化

4月30日に行われた第7回フェアトレードデイ垂井(以下FTD垂井)及び、岐阜県内のフェアトレード(以下FT)や地産地消の拠点で、音楽ライブ、ファッションショー、上映会などを実施する。このように様々な手法を用いることで、住民のFTと地産地消に対する理解や知識、思いを深化させ実践者増やすことを目的とする。

事業の背景と目的

FTや地産地消の概念は、途上国のみならず、日本国内では地方、持続可能という意味では社会全体で必要とされている。そのような中、FTの商品は専門店だけでなく購入できる機会が増え、中学校の教科書でも取り上げられるなど認知度も高まってきた。しかし、多くは「知っている」だけなのが現状である。より広くFTや地産地消を浸透させるには、多くの人が日常生活に取り込むこと、これからの社会をつくる新たな概念

として定着させることが必要である。

FTと地産地消への理解や知識がより深まり、「FTは発展途上国の自立支援」だけではなく「日本国内の地域格差」や「持続可能な社会づくり」にも必要な概念であることが理解される。またこれからの社会をつくる新たな概念として定着していくことを目的とする。

事業の内容

①第7回FTD垂井でのステージ企画

- ・2017年4月7日、21日に実行委員会の開催(企画、運営、準備)
- ・大垣桜高校服飾デザイン科での出前授業の実施(オーガニックコットンに関するワークショップ)
- ・2017年4月29日 イベント準備
- ・2017年4月30日 第7回FTD垂井の開催

[時間] 10:00~16:00

[場所] 垂井町朝倉運動公園自由広場、セミナーハウス

[内容] 垂井町で開催される第7回FTD垂井において、音楽ライブとファッションショーを実施した。音楽ライブは木歌が出演。ファッションショーは大垣桜高校がプロデュース、出演をした。カンボジアの村でカゴを生産し輸入販売するmoilyの池宮さんのトークライブ、フェアトレードのビンゴクイズを実施FTと地産地消の啓発を行った。

②映画上映とトークショー、ワークショップの実施

- ・2018年2月9日「バレンタイン〜掬」上映会

[場所]とまり木 [参加者数]4人

映画上映後、お話会の実施

- ・2018年3月21日「ザ・トゥルー・コスト」上映会

[場所]とまり木 [参加者数]9人

映画上映後、お話会の実施

③評価・改善

垂井町で開催された「ふれあい垂井ピア」泉京・垂井ブースにてフェアトレードに関するアンケート調査を実施した。内容は別紙1参照。



大垣桜高校での出前授業

事業実施団体の概要

団体名:特定非営利活動法人 泉京・垂井

活動内容:

「幸福度の高いまち・垂井」を目指し、垂井町を中心とした西濃圏域、揖斐川流域での地域づくり活動を行っています。

住所:〒503-2124 岐阜県不破郡垂井町宮代1794番地の1

TEL:0584-23-3010 FAX:0584-84-8767

e-mail:info@sento-tarui.org

URL:http://sento-tarui.blogspot.com/



活動の成果と課題

■第7回FTD垂井の来場者数は約10000人であった。町内の園芸屋から購入した植物でステージを作り、ライブやトークを行うなど、参加者は五感でFTや地産地消を感じ考えることができた。大垣桜高校がファッションショープロデュース、出演をしたので、その友人や保護者など普段FTとはかかわりのない方の来場があった。また、事前にFTに関する出前授業を実施したため、FTの担い手を育成することもできた。

■FTに関する上映会を実施した。参加人数はそれぞれ4名と9名で少人数ではあったが、映画を通して、またお話を設定することでFTの理解を深めることができた。



フェアトレードデイ垂井ステージ企画「トークライブ」

■「ふれあい垂井ピア」にてFTに関する意識調査を実施。認知度は微減したものの、「FT商品を買ったことがあるか」の問いに対し「ある」と答えたのが、2016年の9.7%から2017年は26.5%に増えた。またFTD垂井の知名度も上昇し、この地域での少しずつではあるが、FTの広がりを感じられた。

■FTはこの地域に徐々に浸透していったと感じられるが、住民が日常に取り入れるというところまではまだ達成できていない。イベントなどを上手く活用し、FTを今以上に身近にしていく必要がある。



フェアトレードデイ垂井ステージ企画「ピンコクイズ」

実施事業での現地もしくは参加者の声

[出前授業]コットンの生産者の現状を知ることができ、勉強になった。コットンの農家の現状やFTのことをイベントなどを通じて広く知らせたいと思った。

[フェアトレードデイ垂井ステージ企画]実際に現地で活動している方のお話を聞くことができFTへの理解を深めることができた。垂井がFTを行っていることが誇りだと思った(中学生)。

事業実施団体のひとこと

本事業にご支援いただいたことで、地域でのフェアトレードの広がりが加速したように感じられます。大きなイベントである「フェアトレードデイ垂井」には多くの方が参加されますが、その興味をいかに持続していくかが課題でした。今回のご支援ではイベント後の上映会などを開催することができ、FTが一回限りのイベントで終わってしまうのではなく、少しずつですが、みなさんの日常に取り込まれていったと思います。



映画「バレンタインデー〜探」上映会

在日外国人のための 生活オリエンテーション動画作成事業

日本で暮らす主に南米出身のスペイン語圏の住民のために、日本で生活する上での基本的な情報を、6つのテーマに分けて動画を作成した。作成に当たり、外国人からの聞き取りやアンケートの実施により、考えていた以上の問題もあると知った。また動画に参加した外国人自らが抱えている悩みも実際に反映した動画作成を行った。

事業の背景と目的

外国人が生活する上で、情報不足による課題が未だに数多くある。課題の改善、課題そのものの発生・拡大の防止に取り組む必要がある。身近な例として、市役所等の公共機関での手続きなどは最も分かりやすくなければいけないが、それらに戸惑っている外国人は数多い。その多くは南米出身の日系人の方たちで、母国語での動画を見ることにより、正しい情報が得られると考える。また、情報を得ることにより日本での多文化共生社会の実現が見えてくると思う。

事業の内容

動画作成

<タイトル:日本に住むには>

日常生活のよくある相談 「各5分間」

第1回:仕事

第2回:税金

第3回:学校

第4回:住まい

第5階:出生届

第6回:近所づきあい

You Tube での発信

活動の成果と課題

今まで、このような分かりやすいスペイン語での動画は無く、沢山の外国人の生活の支えとなると思う。

それには日本の情報をもっとわかりやすく発信できるようになる事が望ましい。例えば、社会保険の説明をするにも、作成

する側が理解できるようなシステムが望ましい。一人でも多くの方に見て頂きたいので、PRすることがとても重要だと思う。今後作成した動画を観た外国人からの意見も反映して、更に支援の輪を広げていきたいと思う。

事業実施団体の概要

団体名:特定非営利活動法人日本ポリビア人協会

活動内容:

- 1.生活相談窓口
- 2.日本語教室
- 3.ポリビアの文化紹介
- 4.国際交流
- 5.翻訳・通訳(スペイン語・日本語)

住所:〒514-0027 三重県津市大門7-15 津センターパレス3階

TEL:090-7916-6410

e-mail:arbjiyamada5@gmail.com



ビデオの制作



事業実施団体のひとこと

助成金を得ることで、今までになかった生活支援が出来ました。ご指導いただいた、名古屋NGOセンターの皆様、真如苑様、本当に有難うございました。本助成金を受けることによって、スペイン語を話す外国人を対象とした日常生活に役立つビデオを制作することができました。ビデオは日本に住む方法に関する基本的な知識が深まり、問題なく過ごせるようになっています。尚、このビデオの内容は官庁のページや疑問のある人の経験などから抽出したものです。外国人にとって大きな貢献となり、この資料を有意義に使用されることを願っています。

戦争と平和の資料館ピースあいち 開設10周年記念誌刊行事業

戦争と平和の資料館ピースあいちは、2017年5月に開設10周年を迎えました。開設に至るまでの市民運動、開設後の運営、その経過と努力を記録して公表し、また次世代への引継ぎに役立て、同種の他の団体への参考に供することを目的として、10周年記念誌を刊行しました。A4版132頁で、3000冊を印刷し、2018年3月現在、2100冊を配布（一部販売）しました。お読みいただいた方からは、活動の状況が分かり易いとの評をいただいています。

事業の背景と目的

ピースあいちは、特定の政治団体、特定の宗教団体、行政から支援を受けていません。そのため他からの制約を受けず自由な活動ができています。財政は苦しいが、これまでボランティア・スタッフが平和への思いを集め、展示を企画・制作してきました。そうした取り組みの様子は外部からは見え難いものです。専門家ではないスタッフが、勉強し、悩み、苦労しながら完成させて達成感を味わい、来館者やメディアからも高い評価をいただいています。全国にある平和博物館も、それぞれ困難と闘っています。ピースあいちの10年間の歩みの

記録は、不本意・不十分な事項をも含みつつも、貴重な財産となっています。それらを公表し、共有することで、平和をねがう多くの仲間にも参考にしてもらえることは、大いに意義があることでありましょう。

他方で、ボランティア・スタッフは約100人におよび、互いに名前すら知らないようになり、ややもするとバラバラになる惧れがあります。ピースあいちの“文化”や、目的や、決め事、仕事のやり方等を確認めあうために、役立つでしょう。

事業の内容

2016年9月、館設立10周年記念事業のひとつとして、10年誌刊行を決定し2017年5月までに刊行することを目標としました。編集委員会を、館長を含む運営委員で構成しました。

1993年に始めた「愛知に戦争メモリアルセンターの建設を」促す運動の経過、市民の手で建設するに至った経過、2007年5月の開設に向けての常設展示制作の苦勞、開設後の多くの企画展示制作、館内外での戦争体験の語りの事業化、日常の仕事の状況などを、手分けして執筆し、併行して関係者の座談会を開いて知恵や記憶を収録し、また個別的・専門的なテーマについては、寄稿依頼することとしました。本文の外にも、資料編を設けて基本的な決め事や、年表、統計類を集めて記載しました。

執筆の多くはボランティア・スタッフによってなされ、デザインもボランティア・スタッフの手によりました。文字通りの手作りとなりました。また、外部からは、ピースあいちの将来に向けての期待や、ご意見を寄せていただきました。記念誌の表題は、予めから館のメッセージとして使わせていただいている岩川直樹さんの詩から「希望を編みあわせる」としました。

2017年5月4日10周年記念日が発行日となりまし。体裁はA4版132頁で当初計画2000冊を3000冊に増やし印刷しました。

配布先は、会員、ボランティア・スタッフ、支援者・支援団体、語り手の会・語り継ぎ手の会の会員・寄稿者などに2100冊（2018年3月現在、うち販売は143冊）となっています。



編集会議の様子

事業実施団体の概要

団体名: 特定非営利活動法人
平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会

活動内容:

- ①人権の擁護又は平和の推進を図る活動 ②社会教育の推進を図る活動
- ③国際協力の活動

以上のために、戦争と平和の資料館“ピースあいち”を運営

住所:〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台2-820

TEL:052-602-4222 FAX:052-602-4222

e-mail:peace-nw@sirius.ocn.ne.jp

URL:http://www.peace-aichi.com



活動の成果と課題

市民ボランティア・スタッフの活動の歴史が記述されて、活動内容も見える形になり、スタッフの間で思いの共有化もでき、相互理解が進んで、館運営の円滑化・効率化につながりました。

博物館の仲間からは「これまでの不十分さや今後の課題も隠さず表現していて、同じ悩みを抱えるものに参考になる」「市民運動の形、活動の状況がよくわかる」「ボランティア・スタッフなど関係者の熱気が伝わってくる」といった、好意的な評価をいただいています。

記述を通して、苦闘しながらも博物館として、健全に存続でき、一定の成果を挙げてきていることを確認できました。次のステージは如何か。来館者は、展示物や戦争体験談を通して、戦争や平和について何かを感じ、学び、考えるであります。そして期待されるのは、さらに一步踏み出すような自己変革を促すような力を、我々が持つことが、最大の課題であります。それに向かって日々苦闘している様子を20周年誌に書けるようにしたいものです。



ボランティアのミーティング



10周年記念式典のひとつ



毎日新聞記事

実施事業での現地もしくは参加者の声

「ピースあいちのボランティア・スタッフは、それぞれの立場での関心や持てる技を發揮し、多彩で貴重な活動をしてきたことが良くわかりました」。それは「記念誌の編集の場でも同様であったことも分かります」。そして「志を同じくして『希望を編みあわせる』ことの素晴らしさも実感できました」。

事業実施団体のひとこと

このような地味な活動に光をあててご助成下さり、ありがとうございました。これからも頑張りますのでご支援をよろしくお願い致します。

栄養失調児童の給食支援活動 RASA Feeding Program

事業場所はサウスビル第一小学校。約5800人在籍州最大の小学校。学校給食なく、約1500名の児童が栄養失調状態。極貧家庭の100人に質量両方満たす給食を支援。年間登校日に実施。契約に基づきRASAは毎月送金。年間約300万円。学校は所記録を毎月報告。体位向上、学力向上の実績が出る。

事業の背景と目的

この国は多くの島から仕事を求めて、都会に出てきますが、仕事に就けず、軒先や路上生活。結局移動露天商や清掃労働者で不法占拠による生活。政府はここに集合住宅を建て、強制移住させましたが、教育を行けていない、読み書き計算ができない、その日暮らし、無職か低収入、不安定な家計。食事すらできない、学校を休む。教育を受けられない。この貧困の連鎖の原因は無教育をなくすこと、2011年教室が不足の当校に、3教室を建て、教育を受けられる場を提供。その活動中にひどい実情を鑑み、貧困家庭の虚弱児童に給食を開始。2012年RASA独自の資金、2013年モリコロ基金受託とRASA資金、2014年資金不足に苦勞して継続。そこに13、14の過去2年

間にわたり担当者の不正(通帳改ざん、私的流用)を発見。中止も考慮したが、児童の支援を続けたいので場所と管理を学校に移したいと、校長に懇願。3度の依頼で、了承が得られた。かねてからRASAの活動に注目していただいていた他団体からRASAの支援申出があり、2015年以降支援を受けている。栄養、量も満たされ、年度末には全員の体位改善が見られる。向学心、学力も増してきた。4年生以下は2部授業で午前午後の日半授業だが、5、6年生は、終日授業があり、昼食なしで授業を受けるような極貧児童を対象に、100名を年度初めに選んで、給食を支援。2年前から実施継続している。教育省から2年連続で教育に貢献があったという賞をいただいた。

事業の内容

2017、18年度は、栄養失調児童の中の特に体位の悪い児童5年生、6年生各50人ずつが受益者に選定。プログラムは校長と2名のコーディネーター先生が実務を推進。食材購入、献立、児童の直接指導として、祈り、挨拶、整列、歯磨き、手洗い、爪切り。管理面では会計管理、児童の出席記録、体位測定(BMIを算出)児童の選出は各家庭を訪問調査して行う。家庭状況一親の職業、収入、子供の数-の作成を依頼。

2017年度は、特に手洗い場、歯磨き場所の新設、それまでは、狭い給食室の食品を扱う調理場に1列に並んで手洗い、食後の歯磨き水を外の土に直に流し、排水路がなく不潔でした。設備の必要性を見ながらも、給食費用の調達が精一杯でその予算がなかったのです。そこで、助成金を申請して、この解決に及ぶことができました。何とかしなければと、この助成金をお願いしたのです。

食材は、トライシクルで、先生2人が午後、30分かかるブヤオ市の公設市場、やグローサリーストア等で野菜、魚、肉、地元のフルーツを購入。献立は週5日4週間のつき20日1か月間で作成。給食室には、食卓用の長テーブルと長イス、食器や調理用具、体重計、身長計、扇風機。プロパンガスボンベ、大型ガス器具2台、大型炊飯器2台、食器保管庫、ごみバケツ2、清掃具。飲料水タンク2個設置。実際の食事準備は、調理専門1人、2名がヘルパーで調理は依然、清掃補助、コーディネーター2名も来て、指導、配給する。11時半から5年生が50人終わったら、12時から6年生50名が食事をする。1食全費用130円、材料費のみだと107円

家で食べていないので、胃が小さく、食べたくても沢山食べられない児童もいる。よく噛まず、お替りする子、フルーツをそっと鞆に入れ家に持ち帰る子もいる。

事業実施団体の概要

団体名:特定非営利活動法人RASA-Japan

活動内容:

貧困家庭の栄養失調児童100人に、継続して学校で昼食の給食を提供。成長期に必要な質、量を満たす栄養のある食事を提供。衛生マナー教育をし、授業では集中力がつき、学力向上につながる。

住所:〒468-0014

TEL:052-803-1649 FAX:052-802-1649

e-mail:info@rasa-japan.com

URL:http://rasa-japan.com



活動の成果と課題

激やせの児童が、半年の給食で、ほとんどがノーマルの体位に向上。

毎月の報告者で、月が経つに従って、確実に激やせからノーマルに向上している。

出席もよく、集中力がつき、学力も上がったと、報告を受けています。また給食対象の6年生全員が、卒業でき、中には成績優秀者に選ばれ賞を得た児童があるそうです。

年間200日の実施予定が、キリスト教-特にカトリックの国なので、クリスマスの休みが長く、早くから休みに入り、給食実施が減る。また臨時に台風や大雨などで、休みがあって、その間給食が食べられない。また4,5月の2か月も学校は休み。したがって給食はない。この間はどうしているのか、気になります。ほかの給食対象に選ばれない、やせた児童も、公的な給食活動がもっとあったらと思う。



黙々と食べる子供たち



新しくできた手洗い場で、食前の手洗いをする児童



手洗場のない時の手洗い、蛇口一つ。狭いので1列に並んで、時間がかかる。



卒業時優秀な児童に褒美を届ける

実施事業での現地もしくは参加者の声

現地訪問で、教育省の役人や、スーパーバイザーから感謝とともに、事業の継続を依頼されます。

何より、訪問すると、現地の子供たちが、いかに給食を喜んでいるかが、一人ひとり感謝の挨拶を示してくれるかで分かります。また送迎の母親からも、笑顔や会釈から感謝の意を感じます。給食中にほかの選ばれなかった児童が、うらやましそうに、給食室を覗きに來ます。もっと人数を増やしたいけど、場所も予算も無い実情です。

事業実施団体のひとこと

フィリピンの恵まれない児童に教育を!1999年から学ぶ場所がないところに学校建設活動を開始、奨学金事業や親の生活支援事業も過去に行ってきました。今年で活動20年になり、30の建物を建設。2011年から給食活動を開始今年で8年目です。



東海地域NGO活動助成金 (名古屋NGOセンター・真如苑共催) 2017年度公募要項



この助成金は、東海地域を拠点に活動するNGO団体の活動を支援し、その発展に寄与することを目的に、特定非営利活動法人名古屋NGOセンターと宗教法人真如苑の協働事業として2009年1月に設立されたものです。助成資金は真如苑からの寄付によるもので、名古屋NGOセンターはこの寄付が有効に生かされるよう、本要項にそって助成団体を公募します。

1. 対象団体

愛知、岐阜、三重、静岡県内に活動拠点があるNGO団体で、申請時において設立後3年以上経過し、継続的な活動実績がある団体。法人格の有無は問いませんが、民主的で開かれた組織運営がなされていること。応募は1団体につき1件のみとします。なお、前年度までに採択された団体または事業も応募することができますが、直近の3年間で複数回本助成金を受けている場合には、優先順位が低くなります。

2. 助成対象期間

(1) 2017年4月1日から2018年3月31日の間に実施する事業を対象とします。

(2) すでに実施中で2017年度も継続する事業や、2017年度以降も継続する事業も応募できます。この場合、上記(1)の期間中に実施される部分が助成の対象となります。

*事業の実施場所は国内、国外を問いません。2018年5月末までに事業実施報告書を提出できることが条件です。

3. 採択予定件数と助成金額

5～6件程度。1件あたり20万円以内、かつ対象事業経費の80%以内。助成総額100万円を上限に配分します。

4. 助成対象事業

名古屋NGOセンターのミッションと行動規範を定めた「ステファニ憲章*」の精神に合致していれば、特に分野は定めません。教育、保健、医療、福祉などの分野、職業訓練、技術移転、人づくりを通じた自立支援、災害復興、環境保全、多文化共生、その他の人道的活動や啓発活動など、国の内外を問わず様々な活動が対象となります。組織基盤の強化、専門スタッフの育成、広報ツールや一般向け教材の開発、活動の輪を広げることに結びつくようなチャリティ・イベントやファンド・レイジング事業も対象とします。

*ステファニ憲章については、名古屋NGOセンターのホームページ「ミッションと道のり」
<http://www.nangoc.org/02aboutus/index.html>からご覧いただけます。

5. 提出書類 (郵送または直接持参してください)

(1) 助成申請書、事業計画書、収支予算書 各1部
(様式は名古屋NGOセンターのホームページ
<http://www.nangoc.org>からダウンロードできます)

(2) 団体の定款(会則)、役員名簿 各5部
(3) 前年度の事業報告書および決算報告書(またはそれらに準じた資料)各5部
(4) 会報またはパンフレットなど活動内容がわかる資料3点×5部

6. 応募受付期間

2017年1月6日(金)～2017年1月24日(火) 必着

7. 応募書類提出先、問い合わせ先

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター事務局

8. 選考方法および結果通知

(1) 選考は、外部有識者等で構成される選考委員会により厳正に行われます。
(2) 第一次選考: 申請書類に基づいて行い、2017年2月17日(金)までに結果を通知いたします。
(3) 最終選考: 一次選考通過団体を対象に、2017年3月4日(土)午後、会場未定(1団体5分間程度のプレゼンの後、選考委員による7、8分程度の質疑)。プレゼン(質疑対応含む)は基本的に1団体2名以内でお願いします。
(4) 最終結果は2017年3月10日(金)までに通知します。
(5) 必要な場合、追加資料のご提出などをお願いする場合があります。
(6) 選考過程の詳細や採否理由に関するお問い合わせにはお答えできません。

9. その他

(1) 最終選考(公開プレゼン)に進んだ団体には、2名以内かつ合計1万2千円以内で交通費を補助します。ただし、団体事務所の住所を基準に、公共交通機関で往復2,000円以上要する場合に限りです。
(2) 助成金の交付は2017年3月下旬までに行います。
(3) 虚偽の記載や資金の不適切な使用などが判明した場合は、助成金の全額または一部を返還していただく場合があります。
(4) 本助成を受けて実施する事業について、報告や広報媒体への掲載を行う際には「東海地域NGO活動助成金(名古屋NGOセンター・真如苑共催)」を受けた旨を明記してください。報道で取り上げられた場合は記事コピーやビデオ等を名古屋NGOセンターに提出してください。

以上



2017年度 東海地域NGO活動助成金 報告書

発 行 者 :

宗教法人 真如苑

URL: <http://www.shinnyo-en.or.jp>

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004

名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル7F

TEL&FAX:052-228-8109

E-Mail: info@nangoc.org

URL: <http://www.nangoc.org>

レイアウト: 久 由紀枝

(特活)名古屋NGOセンターの紹介

名古屋NGOセンターは、貧困・紛争・環境破壊などの地球規模の課題を解決するために、市民が主体となり取り組む活動を支援しています。支援を通して、人権、平和、環境が守られる社会の創造をめざしています。



47の加盟団体が世界中で活躍しています。

- ・認定NPO法人 アイキャン
- ・公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)
- ・公益社団法人アムネスティ・インターナショナル 日本“わや”グループ
- ・(特活)アユース仏教国際協力ネットワーク・東海
- ・(特活)イカオ・アコ
- ・ACF JAPAN アジア子ども基金
- ・公益財団法人 オイスカ中部日本研修センター
- ・オヴァ・ママの会
- ・オーブジャパン国際開発協力協会
- ・GAIA(がいあ)の会
(主活動=名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会)
- ・(特活)キャンヘルブタイランド
- ・国際相互理解を考える会
- ・(特活)沙漠緑化ナゴヤ
- ・NGO・世界の子どもたちを貧困から守る会
- ・(特活)タランガ・フレンドシップ・グループ
- ・(特活)地域国際活動研究センターCDIC
- ・(特活)チェルノブイリ救援・中部
- ・なごや自由学校
- ・公益財団法人 名古屋YWCA
- ・南遊の会
- ・ニカラグアの会
- ・(特活)NIED・国際理解教育センター
- ・一般財団法人 日本国際飢餓対策機構(JIFH)
- ・日本バングラデシュ友好協力会(JBCS)
- ・ハート・フォー・ザ・ワールド・ジャパン
- ・バングラデシュの人々を支える会
- ・フィリピン人移住者センター(FMC)
- ・不戦へのネットワーク
- ・認定NPO法人 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会 ピースあいち
- ・ペシャワール会名古屋
- ・認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構
- ・認定NPO法人 レスキューストックヤード
- ・認定NPO法人 インド福祉村協会
- ・Cocoagora ココアゴラ
- ・(特活)ボラみみより情報局
- ・(特活)泉京・垂井
- ・バングラデシュ保育園の会(B.N.S.A)
- ・(特活)DIFAR
- ・(特活)多文化共生リソースセンター東海
- ・ビニンブラザーホッド トーカイジャパン
- ・(特活)まちづくりスポット
- ・(特活)ル・スリール・ジャパン
- ・あるすの会
- ・マゴズスクールを支える会
- ・認定NPO法人 アジア車いす交流センター(WAFCA)
- ・認定NPO法人 ムラのミライ
- ・外国人ヘルプライン東海

※(特活)は、特定非営利活動法人の略です。